

第6回講座

断層地震にも警戒必要 がれき処理こそ最優先 訴訟を防災策の教訓に

東北大災害科学国際研究所教授
遠田晋次さん

宮城県土木部理事
笹出陽康さん

笹出陽康さん

仙台弁護士会弁護士
佐藤由麻さん

佐藤由麻さん

東日本大震災の伝承と防
災の担い手育成を目的に河
北新報社などが開く通年講
座「311」伝える／備え
る』次世代塾』第2期の第
6回講座が18日、仙台市宮
城野区の東北福祉大仙台駅
東口キャンパスであった。

「東日本大震災直後の問題
を扱う第1フェーズの最終
回「考える」。震災を引き
起こしたメカニズム、がれ
き処理、津波訴訟の各テ
マについて、東北災害科
学国際研究所教授の遠田晋
次さん(51)、宮城県土木部
理事の笹出陽康さん(58)、
仙台弁護士会弁護士佐藤
由麻さん(38)の3人がそれ
ぞれ講師を務めた。

遠田さんは「地震のメカ
ニズムと防災」と題して講
演。震災発生当初、マグニ
チュード(M)8・9と報
告されたことに「想定外だ
と驚いたことを明かし、宮
城県沖ではM7・5級の地
震が三千年間隔で起きて
いたが東日本大震災では、
複数の震源断層が連動して
動き、想定を超える巨大地
震になった」と解説。

「今後も津波への警戒が
必要な海溝型地震と並び、
内陸地震へも警戒が必要
だ。仙台市の直下にも長町
利府線断層帯があり、油断
はできない。自然現象を正
しく理解して防災減災につ
なげてほしい」と訴えた。

「2人目の笹出さんは震災
当初から3年間、担当課長
として、宮城県のがれき処
理の指揮を執った。「がれ
き処理は復興復旧の1丁目
1番地」と切り出し、「処
理が遅い」との批判も受けた
が、全国の支援もあり、目

標とした3年以内の完了は
できなかった」と振り返った。
笹出さんは、西日本豪雨
被災地の岡山県に派遣さ
れ、震災での知見を提供し
たことも紹介し、「震災を
経験したからこそ、災害へ
の備えや発生時の支援に生
かせることがある」と強調。
「将来のため、震災の記録

と記憶を次世代に引き継い
でいこう」と呼び掛けた。
最後に登壇した佐藤さん
は、石巻市大川小、東松島
市野蒜小など津波犠牲者の
遺族が原告となった宮城県
内の4訴訟を取り上げた。
佐藤さんは「いずれも震災

前の備えや津波襲来の予見
性、注意義務対応が争点と
なったが裁判所の判断は事
案ごとに異なる」と説明。
「遺族の多くは真実の解
明を望んでいるが、法的責
任の問題も絡み、被告側の
口は重い」と指摘した佐藤

311
次世代塾
伝える／備える

第2期



うずたかく積まれたがれきの山。高さは約20mもあった
=2012年4月17日、石巻市川口町

受講生の声



価値観違い驚き
遺族はつらい思いを抱え
ながら「子どもの犠牲を教
訓に、後世の防災対策に生
かしてほしい」と願ってい

ることが印象的でした。被
告側、原告側で価値観に違
いがあり、判決まで時間が
かかることに驚きました。
(富谷市・東北福祉大3年
・横田紗希さん・21歳)



経験生かし支援
がれき撤去は復興を進め
る上で最優先事項だと気づ
かされました。その後の災
害で宮城県は職員を派遣し

てやり方を伝えるなど重要
な役目を担っています。自
分も震災経験者だからこそ
できる支援をしたい。(仙
台市若林区・東北工業大2
年・五島大暉さん・19歳)



知識増やしたい
震災発生時のメカニズム
や、発生前のデータから分
析できることがたくさんあ
ることが分かりました。地

震は日々起こる可能性があ
り、備えがいかに重要かも
学びました。知識を増やし
て地域に貢献したい。(仙
台市若林区・東北福祉大2
年・小林加奈さん・19歳)

メ モ 311「伝える／備える」次世
代塾を運営する「311次世代塾推進協議
会」の構成団体は次の通り。河北新報社、
東北福祉大、仙台市、東北大、宮城教育大、
東北学院大、東北工業大、宮城学院女子大、
尚絅学院大、仙台白百合女子大、学都仙
台台コンソーシアム、日本損害保険協会、み
ちのく創生支援機構。協議会事務局は河北
新報社防災・教育室=メールjisedai@po.
kahoku.co.jp